

## 電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

委員会	第 34 小委員会
事務局	一般社団法人 日本照明工業会

### <規格情報>

規格番号（発行年）	<b>JIS C 8105-1</b> （202X）
対応国際規格番号（版）	<b>IEC 60598-1</b> （第 8.1 版 2017）
規格タイトル	照明器具—第 1 部：安全性要求事項通則
適用範囲に含まれる主な電気用品名	個別規格との組み合わせによる
廃止する基準及び有効期間	<b>J60598-1</b> （H29）：有効期間 3 年間

### <審議中に問題となったこと>

（この規格の概要）

- ・適用範囲：電源電圧が1 000 V以下の電気光源（白熱電球，蛍光ランプ，その他の放電ランプ，LEDなどの電子発光体）用の照明器具
- ・規定事項：照明器具の分類，表示，機械的構造，電氣的構造，及び光生物学的安全性に関する要求事項及び関連する試験

（照明器具の例）



（今回の改正の趣旨）

現行の **JIS C 8105-1:2017** は，**IEC 60598-1** の Ed.8.0(2014)に対応しているが，**IEC 60598-1** は，低圧機器内の絶縁協調に関する水平規格である **IEC 60664 シリーズ**に整合させることを主な目的として，Ed.8.1(2017)に改正された。その改正は，電気機器の安全性に関する基本的な内容であり，我が国でも早急に運用すべき内容が含まれているため，早期の改正の必要があると判断し，今回の改正に至った。

## 電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

### 1. 絶縁協調について

今回の改正で沿面距離及び空間距離の安全規格である IEC 60664 シリーズを導入することとなり、沿面距離及び空間距離の規定（第 11 章）は IEC 60664 シリーズの整合規格である JIS C 60664 規格群を引用する形で全面改正された。沿面距離及び空間距離の最小距離の基準値は、全体として旧規格のそれより小さくなっており、基準値としては緩和されている。また、基準値を決定する動作電圧の区分も変更がなされており、その内容を精査し、国内の配電事情に応じた差異事項の見直しを行った。

絶縁距離の基準値の差異事項の妥当性について議論した際に、IEC 60664 シリーズはクラス 0 照明器具に対しては考慮されておらず、クラス 0 照明器具の基礎絶縁（異極充電部間を除く。）に対する絶縁距離は IEC 60664 シリーズの整合規格である JIS C 60664 規格群の値のままでは安全上の問題があるとし、旧規格の差異事項の一部を引き継ぐことにした。この JIS C 60664 規格群のクラス 0 照明器具への適用の問題は、2010 年版の JIS C8105-1 の解説でも言及している。

更に、空間距離の最小距離を規定する表 11.1B において列間の中間の電圧での基準値は、これまで直線補間で算出することを認めていたが、今回の改正によって直線補間をしてはならない旨の規定が追記され、基準値は電圧区分ごとの値となった。これによって、旧規格にて差異事項として設定していた絶縁距離の最小距離を規定する表の動作電圧区分のうち、100 V 及び 200 V の列は表 11.1B では記載しないことにした。

### 2. 青色光による網膜傷害について

旧規格で導入された、青色光に関する規定は、引用元である光生物学的危険に関する規格（IEC/TR 62778）が、まだ規格（IS）化されておらず、検討段階であるため、本件に関連する箇条には反映されていない。したがって、旧規格にて青色光に関する規定に差異事項を付けた事情が解消されていないと判断し、この規格における、青色光による網膜傷害に関連する規格の差異事項は維持することとした。

### 3. 本文で使用する用語の統一について

旧規格では IEC 60598-1 の原文において、“portable luminaire”と記載されている部分を“可搬形の器具”と訳したり“移動灯器具”と訳したりしており統一されていなかった。審議の結果、“移動灯器具”に統一することとし、本文の全範囲にわたって改めた。

同様に、“UV 放射”と“紫外照射”を“紫外放射”に統一した。

また、照明器具の“本体”、“器体”、“外郭”、“きょう（筐）体”の使い分けについて IEC 60598-1 の原文を参照し、“enclosure：外郭”、“body：器体”、“housing：きょう（筐）体”、“main part：本体”と訳し、使い分けることにした。

その他、同じ意味を示すと思われる用語は見直し、統一を図った。

### 4. 関連法規について

旧規格の箇条 0.5.1 及びその注記において、“一体化構成部品以外の構成部品は、該当する IEC 規格、JIS 又は関連法規がある場合には”これを適用する旨の規定があったが、ここでいう“関連法規”の位置付けが“通達”になっており、表現を改める必要があるとの意見があった。審議及び関連グループ・団体へのヒヤリング/調整の結果、“該当する IEC 規格、JIS 又は同等以上の性能をもつとみなせる基準がある場合には、”と表現を変更することにした。

## 電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

<主な国際規格との差異の概要とその理由>

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主な差異事項

項目番号	概 要	理 由
0.5.1	構成部品の要求として IEC 規格のほかに JIS 又は同等以上の性能をもつとみなせる基準でもよいことを追記した	我が国の法及び規格体系に整合するための修正。
1.2.91C 1.2.91D	他の章に規定する LED 照明器具に関する技術的差異の意味を明確化するため、LED ランプ、LED モジュールの定義を追加した。	規定の明確化のため。
3.3.23	制御装置を附属しない照明器具における、適切な構成部品の選定に関する情報の表示要求について、“適合する制御装置を指定しない”場合に限定した。	我が国の配線事情に合わせた修正。
3.3.24	“端子台を附属しない照明器具の場合、端子台に関する情報を記載する箇所に、取扱説明書を追加した。	我が国の配線事情に合わせた修正。
4.11.2	“JIS B 1007 の第 3 種タッピンねじ”を、“JIS B 1122 の第 3 種タッピンねじ”に書き改めた。	我が国で使用を認めているねじの規格が修正となり、該当のねじの記載が削除されていたため、記載のある別の規格から引用するようにした。
4.12.5	表 4.2 の基準値がどこに加えるモーメントの値なのか明確にするために表題を変更した。	規定の明確化のため。
7.2.11	保護接地線の識別に関して、我が国固有の同等以上の性能をもつとみなせる基準で認める手段を併記した。	我が国の法及び規格体系に整合するための修正。
11.2.1	IEC 規格のほか、我が国固有の同等以上の性能をもつとみなせる基準及び JIS を引用した。	我が国の法及び規格体系に整合するための修正。
11.2.2	表 11.1A に、我が国の配電電圧である 100 V 及び 200 V の沿面距離を追加した。また、クラス 0 の沿面距離を追加した。	我が国の事情に合わせた修正。
11.2.3	表 11.1B に、クラス 0 の空間距離を追加した	我が国の事情に合わせた修正。

<主な改正点>

主な改正点は、次のとおりである。

箇条	題名	改正点	意図
0.2	引用規格	4 の引用規格を追加した。	新規に本文で引用される規格を追加。
0.5	照明器具の構成部品	旧規格では、“一体化構成部品以外の構成部品は、該当する IEC 規格、JIS 又は関連法規がある場合には、それらの要求事項に適合しなければならない。”と規定していたが、ここでいう“関連法規”の位置付けが“通達”になったため、“該当する IEC 規格、JIS 又は同等以上の性能をもつとみなせる基準がある場合には、”と表現を変更した。実質的な内容に変更はない。また、別表第六及び別表第	我が国の事情に合わせた修正

## 電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

		八が適用される構成部品も存在することから、注記にこれらの例を追加した。	
0.7	光源の規格における照明器具設計のための情報	光源の安全規格と性能規格における“照明器具設計のための情報”の取扱いを規定するこの細分箇条を追加した。	IEC 規格にて追記があったため。
1.2	用語及び定義	“制御装置を内蔵しない照明器具”に関する用語、及び“絶縁協調”に関する用語を追加。	改定される箇条項目に連動しての用語を追記
3.2	表示	光源の最大定格電力又は最大入力電力の表示に関わる要件、特別低電圧直流電源へ接続する口出線および端子の表示に関わる要件、定格入力定電圧あるいは定格入力定電流、最大許容出力電圧の表示の要求を追加した。	“制御装置を内蔵しない照明器具”及び“使用者非交換形光源用の照明器具”を想定して表示事項を追加する。
3.3.	追加の情報	制御装置に関連する $U_{out}$ 、 $U_p$ などの、照明器具が制御装置を内蔵しない場合に提示しなければならない情報、照明器具に端子台が附属しない場合に提示しなければならない情報を追加した。	“制御装置を内蔵しない照明器具”を想定して情報提供すべき事項を追加する。
4.7.3	端子及び電源接続	“口出し線（端末線）”への要求事項は、これまで第5章が適用されていたが、IEC60598-1 第8.1 版から 5.3 の適用となり、口出し線（端末線）への要求事項の適用範囲が改正された。	IEC 規格にて変更があったため。
4.14	つり具、固定部及び調節手段	箇条の名称を“つり具及び調節手段”から“つり具、固定部及び調節手段”に変更。また、この箇条の適用部位を IEC への確認の結果、“つり具”から“つり具、固定部及び接続部”に変更した。	前版での箇条名称の和訳を見直した。 適用部位について IEC 確認の結果を反映した。
4.14.1	つり具、固定部及び調節手段試験 E	クリップ取付形照明器具に関する判定基準を“動かない”→“落下しない”に変更した。	IEC 60598-1 Ed8.1 において基準に係る記述に変更があったため。
4.16	可燃材料表面へ取り付ける照明器具	“ライティングダクトに取り付けるアダプターを附属する照明器具は、可燃材料表面への取付に対する要求事項に適合しなければならない。”ことを明記。	ライティングダクト取付の器具の要求事項を明確にする追記があったため。
5.2	電源との接続及びその他の外部配線	照明器具の電源との接続が口出し線である場合で端子台などを付属しないものは、使用可能な端子台の選定に係る情報開示事項（定格、極数など）を追記した。	電源との接続に使用できる端子台の定格や種類を開示する事項としている。
5.2	表 5.1	電源コードについて規定する表 5.1 を変更。“以上”“以下”“超”の表現を IEC 原文に合わせて符号に変更した。	規定条件を表す “**以上、以下、超” の表現を符号 “**

## 電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

			≧, <”を使った表現に変更されたため。
5.2	表 5.3	電線の断面積を規定する表 5.3 を追加し、その中で SELV に関する条件を追記した。	文章での表現を表に表した。
5.4	導体の断面積を減少するときの適合性を判定する試験	導体の断面積を減少するときの適合性を判定する試験に関する規定を追加する。	図 33 とともに新規に追加規定されたため追加。
9.2.3	防滴形照明器具	防滴形照明器具 (IP 第二特性数字 2) の試験条件を追加。	前版まで IP 第二特性数字 2 の記述がなく、今回の改定で追加。
第 11 章	沿面距離及び空間距離	絶縁協調の規格 IEC 60664 シリーズの整合規格である JIS C 60664 規格群に合わせて全面改訂した。沿面距離と空間距離の規定表を分割 (表 11.1A と 11.1B) し規定値も見直した。ただし、クラス 0 照明器具の基礎絶縁に対する絶縁距離の規定値には JIS C 60664 規格群の値のままでは安全上の問題があるとし、差異事項を付けている。表 11.1A, B の規定値は周波数 30kHz 以下が前提だが、これを超える場合は JIS C 60664-4 を引用し適用する。 空間距離は耐インパルスカテゴリ II の過渡現象の有無無しで規定した。ただし、空間距離の規定表の表 11.1B では、列間の補間ができないとする文言が追加された。	IEC 60664 シリーズ及び JIS C 60664 規格群に対する整合。
12.3, 12.4, 12.5	耐久試験, 温度試験 (通常動作), 温度試験 (異常動作)	制御装置を附属しない定電圧又は定電流動作の照明器具では、定格入力定電圧又は定格入力定電流のいずれか適切な条件の 1.1 倍で試験しなければならない、とする試験条件が新たに規定された。	制御装置を附属しない照明器具の試験条件を明確化した。
12.4 表 12.1 15.5 15.6	温度試験 (通常動作) 内部配線用端子及び接続 外部配線用の端子及び接続	ランプソケットの欄にあった“t マーク”は、同時期に改正を予定している引用規格の JIS C 8280 から“t マーク”の文言を削除するとの改正方針を、照明器具接続部品分科会から受け、部品と製品各々の規格での整合性について審議の結果、今回の改正でこの規格からも削除することにした。 同様に、15.5.2.2.1 及び 15.6.3.2.3 での“t マーク”の文言も削除することにした。	関連部品規格との整合を図るため。
附属書 T	クラス 0 に対する参照	IEC においてクラス 0 に関する記述が削除され無効となったため、附属書 T を削除する。	IEC 60598-1 Ed8.1 において変更があったため。

## 電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

<b>附属書 U</b>	耐インパルスカテゴリ III を要求する場合の沿面距離及び空間距離	絶縁協調の規格 <b>IEC 60664</b> シリーズの <b>整合規格である JIS C 60664 規格群</b> に合わせて全面改訂した。耐インパルスカテゴリ III を要求する場合の沿面距離及び空間距離について、 <b>表 U.1</b> で空間距離の規定値を見直した。なお、沿面距離の規定値は <b>IEC</b> 原文で <b>11.2.2</b> を維持するとあるので、これに従っている。	<b>IEC 60664 シリーズ及び JIS C 60664 規格群</b> に対する整合
--------------	-----------------------------------	---	--



# 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 8105-1 (202X) 規格名：照明器具 — 第1部：安全性要求事項通則

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第二条	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	03.1  4.27A	03.1 照明器具は、通常の使用時に安全に機能し、人及び周囲に危険を引き起こさないように、設計及び製造をしなければならない。  4.27A 光出力 一般照明用の LED 照明器具の光出力は、人がちらつきを感じるものであってはならない。	
第 二 条 第 2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	第 4 章 第 5 章 第 14 章 第 15 章	第 4 章 構造 第 5 章 外部及び内部配線 第 14 章 ねじ締め式端子 第 15 章 ねじなし端子及び電気的接続	
第三条	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	4.26  12.5 12.6 12.7	4.26 短絡保護 絶縁しない可触の異極の安全特別低電圧部（SELV）の短絡事故の下での安全保護手段  12.5 温度試験（異常動作） 12.6 温度試験（ランプ制御装置が故障を起こした状態） 12.7 熱可塑性樹脂製照明器具に使用するランプ制御装置又は電子装置の故障状態に関する温度試験	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによつてはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意	■該当 □非該当	3.2 3.3	3.2 照明器具の表示 3.3 追加の情報	

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第2項 続き		について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。				
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	■該当 □非該当	4.11.4  4.14.3 4.18 4.27B  12.3 14.4.5	4.11.4 通電部は、腐食に耐えるか、又は腐食に対して適切に保護していなければならない。  4.14.3 調節装置（調節装置の動作サイクル試験） 4.18 耐食性 4.27B 供用期間中の発煙、発火などの防止 LED 照明器具は、供用期間中に発煙、発火など火災に関連する故障が発生しないように設計しなければならない。  12.3 耐久性試験 14.4.5 ねじ締め式端子の耐食性	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	第9章	第9章 じんあい、固形物及び水気の侵入に対する保護	



## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>4.4.7</b>  <b>4.9.2</b>  <b>5.2.2</b>  <b>5.3.1</b>  第 12 章 第 13 章 <b>15.3.9</b>  <b>15.5.2.2</b> <b>15.6.3.2</b>	<b>4.4.7</b> ラフサービス照明器具に組み込むランプソケット及び差し込みプラグの絶縁部分の耐トラッキング性  <b>4.9.2</b> 絶縁ライニング（裏打ち）及びスリーブの機械的、電氣的及び熱的強度  <b>5.2.2</b> 照明器具製造業者が取り付けた電源コードに対する電氣的・機械的性能及び通常の使用温度における最高温度での耐劣化性  <b>5.3.1</b> 内部配線の適切な種類及びサイズの使用、絶縁の安全性、耐電圧性、耐温度性  第 12 章 耐久性試験及び温度試験 第 13 章 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性 <b>15.3.9</b> 端子及び接続器は、通常使用で起こる機械的、電氣的及び熱的ストレスに耐えなければならない。  <b>15.5.2.2</b> 内部配線用端子及び接続の加熱試験 <b>15.6.3.2</b> 外部配線用端子及び接続の加熱試験	
第七条	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。  一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>4.29</b>  <b>4.30</b>	<b>4.29</b> 非交換形光源をもつ照明器具（照明器具又は照明器具の部分破壊することなく、光源の交換及び／又は充電部へ接触ができてはならない。）  <b>4.30</b> 使用者非交換形光源をもつ照明器具（使用者非交換形光源を覆って感電に対して保護するカバーがあり、カバーに <b>3.2.24</b> による“感電注意”シンボルが表示されている場合は、二つ以上の独立した固定手段によって、所定の位置	

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第七条 続き				<b>5.2.10</b>  <b>5.3.13</b>  第8章	に保持されなければならない。) <b>5.2.10</b> ケーブル又はコードが絶縁破壊したとき可触金属部分が充電部となるおそれがある場合は、コード止め具は絶縁物を用いるか、又は固着絶縁ライニングを施さなければならない。 <b>5.3.13</b> 内部配線に充電部となる導体を持ち、かつ、通常動作状態で可触金属部分があるクラスⅡ照明器具では、少なくとも接触箇所における絶縁は、例えば被覆ケーブル又はスリーブなどを適用することによって、電圧ストレスに対応した二重絶縁又は強化絶縁の要求事項を満たさなければならない。 第8章 感電に対する保護	
第七条 第2号	感電に対する保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>8.1</b>  第7章 <b>10.3</b>	<b>8.1</b> 附属書A 導電部が感電を生じるかどうかを決める試験 第7章 保護接地 <b>10.3</b> 接触電流、保護導体電流及び電気やけど	
第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>4.3</b>   <b>4.9</b> <b>5.3.6</b>	<b>4.3</b> 電線経路 電線はなめらかな経路に配し、シャープエッジ・ばり・鋳はりなどから電線の絶縁被覆が損傷を受けないようになっていなければならない。 <b>4.9</b> 絶縁ライニング（裏打ち）及びスリーブ <b>5.3.6</b> 調整可能形照明器具及び自在型照明器具で、照明器	

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第八条 続き				第9章 10.2 第11章 第12章 第13章 15.5.2.2 15.6.3.2	具の通常の動きで配線が金属部分と擦れてその絶縁を損なう可能性のあるすべての箇所では、配線を絶縁物の線ぴ、電線止め具又は同様の手段で固定して擦れないようにしなければならない。 第9章 じんあい、固形物及び水気の侵入に対する保護 10.2 絶縁抵抗及び耐電圧 第11章 浴面距離及び空間距離 第12章 耐久性試験及び温度試験 第13章 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性 15.5.2.2 内部配線用端子及び接続の加熱試験 15.9.2 外部配線用端子及び接続の加熱試験	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	2.4 3.2.9 3.2.13 4.15.1 4.15.2 4.16 4.21.4 4.26	2.4 照明器具が不燃性材料表面にだけ取付に適しているもののシンボル 3.2.9 可燃性材料表面への直接取付に適さない照明器具の表示 3.2.13 被照射物が過熱する可能性がある照明器具の表示 4.15.1 可炎性材料部分の発熱部からの分離、セルロイドのような激しく燃える材料の使用禁止 4.15.2 熱可塑性樹脂材料製照明器具の耐温度性 4.16 可炎性材料表面へ取り付ける照明器具の過熱対策 4.21.4 絶縁材料製のランプ収納室の耐炎性及び耐着火性 4.26 短絡保護	

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第九条 続き				<b>4.26A</b>  <b>4.27B</b> 第 12 章 <b>13.3</b>	絶縁しない可触の異極の安全特別低電圧部（SELV）の短絡事故の下での安全保護手段。  <b>4.26A</b> ブローイング工法で断熱材施工する照明器具は、規定する検査プローブが侵入する開口部があつてはならない。  <b>4.27B</b> 供用期間中の発煙、発火などの防止 第 12 章 耐久性試験及び温度試験 <b>13.3</b> 耐炎性及び耐着火性試験	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>12.4</b>  <b>12.5</b>	<b>12.4</b> 温度試験（通常動作）（照明器具が動作温度に達したときに可触部分、取り扱う部分、調整する部分及び握る部分の過度の温度上昇があつてはならない。）  <b>12.5</b> 温度試験（異常動作）（手で触れるおそれのある部分の温度について規定されている。）	
第 十 一 条	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>4.13.4</b>  <b>4.14</b>  <b>4.25</b>	<b>4.13.4</b> ラフサービス照明器具 ラフサービス照明器具は、適切な機械的強度をもち、通常の使用中に予期される周囲環境で転倒してはならない。  <b>4.14</b> つり具、固定部及び調節手段（機械的なつり具、固定部及び接続部の強度の適切な安全率）  <b>4.25</b> 機械的危険箇所 照明器具は、取付け工事中、通常使用時又は保守のときに、使用者が危険になるような鋭利な突起又はエッジがあつてはならない。	

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第十一 条第2項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>4.4.4</b>  <b>4.9.2</b>  <b>4.12.1</b> <b>4.13</b> <b>4.20</b>  <b>4.21</b>   <b>8.2.6</b>  <b>14.4.4</b> <b>15.3.9</b>  <b>15.5.1</b>  <b>15.6.2</b>	<b>4.4.4</b> ランプソケットの固定装置の機械的強度  <b>4.9.2</b> 絶縁ライニング（裏打ち）及びスリーブの機械的、電気的及び熱的強度  <b>4.12.1</b> ねじ及び機械的接続部の機械的ストレス耐性 <b>4.13</b> 照明器具の機械的強度 <b>4.20</b> ラフサービス照明器具—振動に対する要求事項 ラフサービス照明器具は、振動に対して適切な耐性をもたなければならない。  <b>4.21</b> 保護シールド（ハロゲン電球及びメタルハライドランプを用いる照明器具は、ランプの破裂の危険性があるため、保護シールドをもたなければならない。ランプ収納室の部分は、ランプの破裂による破片で安全性を損なわないように設計しなければならない。）  <b>8.2.6</b> 感電に対する保護のためのカバー及びその他の部分の機械的強度  <b>14.4.4</b> 照明器具に組み込むねじ締め式端子の機械的強度 <b>15.3.9</b> ねじなし端子及び接続器の機械的、電気的及び熱的ストレス耐性  <b>15.5.1</b> 内部配線用のねじなし端子及び電気接続の機械的強度  <b>15.6.2</b> 外部配線用のねじなし端子及び電気接続の機械的強度	

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	照明器具は、一般的に、流出し、又は溶出することにより人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与える化学物質を使用していない。
第十三条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	4.24	4.24.1 紫外放射 4.24.2 青色光による網膜傷害	
第十四条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	4.26 4.26 12.5 12.6 12.7	4.26 短絡保護 絶縁しない可触の異極の安全特別低電圧部（SELV）の短絡事故の下での安全保護手段 12.5 温度試験（異常動作） 12.6 温度試験（ランプ制御装置が故障を起こした状態） 12.7 熱可塑性樹脂製照明器具に使用するランプ制御装置又は電子装置の故障状態に関する温度試験	
第十五条	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	照明器具は、不意な動作によって人体に危害が及ぶおそれがな

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
						い。
第十五条第2項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	□該当 ■非該当	—	—	照明器具は、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがない。
第十五条第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	□該当 ■非該当	—	—	照明器具は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがない。
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	■該当 □非該当	5.2.2 5.3.1	5.2.2 電源コードの導体の最小断面積の規定 5.3.1 内部配線の適切な種類及びサイズの使用、絶縁の安全性、耐電圧性、耐温度性	



## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 十 七 条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	■該当  □非該当	<b>0.3.1</b>          <b>11.2</b>	<b>0.3.1</b> 照明器具は、通常の使用時に安全に機能し、人及び周囲に危険を引き起こさないように、設計及び製造しなければならない。  <b>11.2</b> 沿面距離及び空間距離  耐インパルスカテゴリに応じた沿面距離及び空間距離	
第 十 八 条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	□該当  ■非該当	—	—	照明器具に対する雑音の強さは、J55015等の別規格で規定されている。
第 十 九 条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	■該当  □非該当	第3章  <b>12.3.2</b>	第3章 表示  <b>12.3.2</b> 耐久性試験後の表示の可読性に対する規定	
第 二 十 条	表示等（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない	□該当  ■非該当	—	—	長期使用製品安全表示制度については、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 二 十 条 続 ぎ		方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三 第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨				
第 二 十 条第2項	表示等（長期使用製品安全表示制度による表示）	二 電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	長期使用製品安全表示制度については、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。
第 二 十 条第3項	表示等（長期使用製品安全表示	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	長期使用製品安全表示制度につ

## 技術基準との整合確認書

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第二十条第3項 続き	制度による表示)	<p>気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。) 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>				<p>いては、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。</p>
第二十条第4項	表示等（長期使用製品安全表示制度による表示)	<p>四 テレビジョン受信機(ブラウン管のもの)に限り、産業用のものを除く。) 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	<p>長期使用製品安全表示制度については、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。</p>